

# Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学



平成二十五年度

## 入学式

平成二十五年度日本赤十字北海道看護大学入学式が四月五日金曜日に行われました。

心地よい青空の中、看護学部看護学科の新入学生一〇七名はオホーツク管内をはじめとして全道各地や東北地方からここ北見で大学生活の一步を踏み出しました。また、大学院看護学研究科看護学専攻の入学者は十七名で、その内訳は看護管理学領域二名、基礎看護学領域一名、災害看護学領域二名、慢性看護学領域二名、精神保健看護学領域二名、がん看護学領域一名、助産学領域七名でした。各領域の



論文コースのほか、高度実践者の教育課程である専門看護師(CNS)コースに三名、助産師国家試験受験資格の取得をめざす助産学形成コースに六名が入学しました。  
入学式には、日本赤十字学園理事長代理、北見市長、道内赤十字病院の院長や看護部長はじめ、例年にないほど多くの保護者の方々が列席されました。ひとりひとりの名前が呼ばれ、河口学長から入学許可があつた後、列席された方々から新入学生に祝福と期待や激励の言葉をいただきました。



## 新入生歓迎のご挨拶



学長  
河口てる子

学長の河口です。  
新入生の皆さん、今年の北見の春はたいへん遅く、寒い日々が続きましたが、花が咲き乱れる春はいかがですか。

さて、看護は、今でこそ全国に二〇〇以上の大学ができて、一般の人々の看護師を見るまなざしも大事な専門職へと変わりましたが、以前からそうであつたわけではありません。初めて人々に専門職として看護の重要性を知らしめた人は、世に名高いフロレンス・ナイチンゲールでした。彼女は、クリミア戦争に従軍し、「クリミアの天使」「白衣の天使」と呼ばれましたが、彼女自身はそう呼ばれることを好まなかつたようです。

彼女にとって「天使とは、美しい花をまき散らす者でなく、苦悩する者のために戦う者である」から、彼女は「傷病で死ぬよりも衛生状態、感染症で死亡する負傷兵を良い環境で治療しようとデータを収集し、それを根拠にありとあらゆる手を使って衛生状態の改善を訴

えた」戦う人でした。日本では、ナイチンゲールは「奉仕の精神」とともに「白衣の天使」と呼ばれますが、彼女の実像は、看護師を「病人の世話をする単なる召使」から「専門職」として生み育てた統計学者で、改善に向かい行動する「戦う人」であつたのです。

本学は、赤十字の長い看護の歴史の中で、高きhumanityの理念と確かな実践から培われた「実践知」を持つ大学です。人々の幸に寄与するために、やさしいだけではない「戦う看護師」であることも専門職として重要なことです。そのような看護師になるために、日々地道に励んでいってほしいと願っています。





平成二十四年度

# 学位授与式

平成二十五年三月十三日、本学講堂において看護学部および助産学研究科の学位授与式が挙行されました。

出席者全員で御歌「四方の国」を斉唱し、続いて、河口てる子学長から、すべての卒業生に対して学位記が手渡されました。これは今回初の試みとなったもので、登壇する卒業生たちは、改めて卒業の喜びを噛みしめておりました。



河口学長からは、「挨拶は人間関係の要」、「新人なのだから、恥と思わずわからないことがあれば、すぐ質問をする」、「ひとりではまず仲間を作ること、つらいことを乗り越える」の三つのキーワードにくわえ、さらに研鑽を重ね、看護者として成長していつて欲しい、と巣立ちゆく若者たちへの手向けとして贈られました。引き続き、大塚義治日本赤十字学園理事長からは、「多くの方々に支えられて卒業できたことを忘れずに、看護者として日々研鑽、努力を続けて、赤十字の心を伝えてください。」とのお言葉を頂きました。また、桜田真人北見市長（代読塚本敏一副市長）、伊藤義郎日本赤十字社北海道支部長（代読中島昇事務局長）から祝辞を賜りました。

在学生を代表して、原あや香さんが送辞を読み上げ、卒業生を代表して佐藤久美子さんが「良い仲間と出会い、一人ではなく、チームで協力し合う大切さを学べました。社会に出ても、赤十字の理念を活かし幅広い分野で活躍していきたいです。」という、答辞を読み上げました。卒業表彰、記念品、花束の贈呈と続き、最後に校歌を

〔学部生：九十八名  
大学院生：二名〕

全員で斉唱して、式を終了いたしました。



## アメリカ(ロサンゼルス)看護研修

三月三日から十一日までの八日間、アメリカ看護研修の引率として一年生三名、二年生三名とともにロサンゼルスに行ってきました。主な研修内容は高齢者施設のボランティア活動、急性期病院、小児病院の見学、ロサンゼルス在住の日本人看護師による講義の聴講、米国赤十字社ロサンゼルス支部見学、語学学校での英語レッスンでした。この研修を通してまず思ったことは、アメリカの合理性です。高齢者施設では、個室で生活する約一〇〇名の入居者を、夜間は各階に一人のスタッフのみで管理していますが、動きを感じするセンサーが各部屋に設置され、異常があれば知らせるシステムになっています。急性期病院では、ロボットによって配膳やゴミ回収が行われ、検体は気送管を使用して送られます。また、講義において、日本で一人の看護師が行っているケアは、アメリカでは三つの職種に分類されていることが分かりました。

二つ目は、子供がとても大切にされていることです。見学した小児病院は、外見も内装もおとぎの国のように、スタッフさえ立入厳禁のプレイルームがあり、遊びながら治療が受けられる工夫がされています。

三つ目は、アメリカでは赤十字が市民の身近に存在するというこ

とです。ロス支部では、災害が起これば訓練された市民がボランティアで救護に行きます。また、市役所や消防署を通して支部に届いた市民一人一人の声に、迅速に対応します。

そして四つ目は、この研修が六人の研修生に与えた刺激、効果についてです。全員が高齢者施設でのボランティア活動では積極的に利用者の方と関わり、英会話力も楽しみながら上達させ、研修の終わり頃には海外で看護師として働きたいと言っていました。今回の海外研修は、看護師の在り方についての視野を広げ、自分は何をやりたいか、どんな看護師になりたいのかを考える良い機会になったのではないかと思います。





## 新入生のごとば



1年 津田 真里奈

私が本学を選んだ理由は、赤十字の国際活動に興味を持っていただけです。私は将来、国際援助に関わる仕事に就きたいと考えています。そのためにはやはり、現場での実践力や、対応力、判断力が問われてくると思います。その点、本学では、赤十字とボランティア活動という、実際に現場に行き、現場でしか味わうことのできない緊張感や、対応力を学べる授業があるとうかがったため、ここしかない！と思い決意しました。また国際援助に行くような国では、栄養不良などの問題も多く見られるとうかがったので、そのような人の役に立てるよう、私は本学で保健師の専攻もしたいと考えています。そして、友達をたくさん作り、楽しい大学生活にしていきたいと思っています。



1年 柏崎 虹輝

私がこの大学を選んだ理由は、国内の災害活動をやりたことや、将来救急で働きたいと考えたとき、被災地での活動や支援を積極的に

行っている日本赤十字社系列の大学で看護を学びたいと思ったからです。私は高校生の時、ボランティア活動や二年前の東日本大震災を体験して何か被災者の役に立ちたいという思いはあったのですが、なかなか行動に移すことが出来ず心残りがあるまま卒業してしまいました。本学では、地元北見でのボランティア活動から東日本大震災の支援活動、海外の救護活動まで多くのことに携わる機会があり、そのなかで経験することは将来のために必ず役に立つと思うので、積極的に参加したいと思っています。その他にも、四年間という在学期間の中で看護についての勉強はもちろん、サークル活動なども頑張っていきたいです。

## 担任紹介



1学年 主担任 教授 山川 京子

一年生担任の山川京子です。二年間、尾山先生、根本先生、吉谷先生の四人で連携しながら一年生の学業と生活の支援に取り組みますのでどうぞよろしくお願いいたします。

一年生のみなさんは、入学から四か月めを迎え、大学生活にも馴れてきたところでしょうね。大学祭でも多くの一年生が活躍しました。とても力強くうれしく思いま

した。その反面、この時期は学業への集中がやや疎かになりがちな時期です。最近、授業中の一年生のお叱りをいただきました。学業と生活のリズムをつくる大事な時期です。今一度気を引き締めて、大学生の本分である学業への集中力を培うよう行動してほしいと念じているところです。



3学年 主担任 教授 河原田 榮子

平成二十五年四月から二年間に亘る三学年四人の担任教員を紹介いたします。

今まで一学年から二年間主担任でした形態機能学領域の大森行雄教授は、継続的に担任を致します。新規には、基礎看護学領域の山本美紀准教授と在宅看護学領域の葛西智賀子准教授と主担任の成人看護学領域の河原田榮子です。

三学年前期で看護学部の主要な基礎・専門基礎・専門分野の各看護学の講義・演習は、ほぼ終了します。そして後期からは、各看護学領域別実習と統合分野の在宅看護学実習が開始されます。

初めての病院や施設実習は、学習環境が大学内と急激に変わるために、体調管理には十分気をつけて望みたいものです。いつでも困った時には、担任達に声かけをしてください。宜しく願います。

## 学生相談室より



カウンセラー 橋本 きみ

二〇〇九年より心理相談を担当し五年目を迎えました。これまで月二回の相談から、今年からは毎週一回、木曜日に相談を受け持つております。四年経過し、少しですが学生の悩む姿が見えて来ました。人間は一人では生きられない社会的存在ですので、人間関係に悩むのが常です。でもこの悩みは人の成長に欠かせません。でも人間はそんなに強くないので、悩んでしまいい人で重さを抱えているように見受けました。また心理相談に行く、「心の病と見られる」のを恐れているように思いました。

心には正常と異常には境があると思いますか？私には有るとは考えません。皆さんは思いがけない状況に出会い、心が強く揺れ動き、心も身体も動けなくなつた経験はありませんか。私は何度もあります。その状況から這い上がる力を各自持っているのですが、出来事の最中にはそれが見えません。人に話し、吐き出していく過程で自分の力を引き出されます。どうぞ、どんな悩みでも構いません。保健室の扉を叩いて下さい。

## 合同就職説明会

四月二十日（土）、四年生を対象に、合同就職説明会が開催されました。

この合同就職説明会は、毎年開催しており、今年は道内外の赤十字病院並びに道内外の医療機関、合わせて三十五病院、七十二名の医療関係者の参加をいただきました。学生の参加者は、四学年生だけでなく、一〜三学年生の参加もあり、合わせて一八五名の学生が、積極的に各病院のブースを廻り情報を集めており、大変有意義な合同就職説明会となりました。

この度の合同就職説明会に、道内外からご参加をいただきました各病院関係者にお礼を申し上げますと共に、来年もよろしくお願いたします。





新任教員紹介



臨床医学領域  
教授 山崎 弘資

五月より臨床医学領域外科系を担当することになりました。臨床は旭川医科大学病院、釧路市立病院、札幌ことに乳腺クリニックなどで乳癌、肺癌、食道癌を中心に腫瘍外科を専門としてきました。研究は旭川医科大学、米国ミシガン大学で腫瘍血管新生、臓器特異的血管内皮細胞に関する研究を行ってきました。また、乳癌化学療法法の臨床試験や乳癌診療ガイドラインの作成に長年携ってまいりました。看護教育に関しては旭川医科大学看護学科や釧路市立高等看護学院で講義を担当しましたが、専任で看護教育に関わるのは初めてです。これまでの経験が本学の教育、研究にお役に立てばと考えております。よろしくお願い申し上げます。



成人看護学領域  
教授 中野実代子

皆様、初めまして。成人看護学領域で慢性看護を担当しております、中野です。

四月半ばを過ぎて、野に目を向けば芽吹いたばかりのフキノトウやツクシ、窓に目を向ければ空からははらと真つ白な雪、と人生で最も遅い春の訪れを体感しています。

南国育ちのため寒さに慣れることが一番の課題ですが、北国への憧れもあるので、生活のなかで新たな発見を楽しみながら、少しずつ馴染んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



地域看護学領域  
講師 武澤 千尋

地域看護学領域に着任しました、武澤千尋と申します。

私は静岡県の温暖で雪が珍しい土地で育ちましたので、北見市で真つ白な雪景色を目にした時は、初めて見る美しさに感激しました。学生の皆さんは病院で活躍する看護師をめざしている方が多いと思いますが、私たちの活躍する場は広がっています。私は地域で生活している人の健康を守る看護に関心があります。ぜひ楽しみに学んでいきましょう。どうぞよろしくお願いたします。

平成25年度入試概況

試験区分 募集人員等	推薦入学試験		一般入学 試験 (前期)	一般入学 試験 (後期)	大学入試セ ンター試験 利用入試	社会人 入学試験
	公募推薦	指定校推薦				
募集人員	35名	10名	40名	5名	10名	若干名
志願者数	72名	13名	205名	39名	151名	7名
受験者数	72名	13名	199名	38名	151名	6名
合格者数	41名	13名	75名	6名	44名	1名
実質倍率	1.8倍	1.0倍	2.7倍	6.3倍	3.4倍	6.0倍
入学者数	41名	13名	44名	5名	3名	1名

学年表彰について

- (一学年) 前田 遙さん、清河 文乃さん、古賀 春菜さん、甲斐 美咲さん
- (二学年) 伊藤 芹佳さん、伊藤 二葉さん、阿部 由花さん、小野寺ゆいさん
- (三学年) 原 あや香さん、有田 瑞恵さん、生方なつみさん、藤原 千夏さん

表彰式は、平成二十五年四月八日(月)の全体ガイダンスにおいて執り行われました。

平成24年度卒業生の進路について

	道内	道外	合計
日赤関係	65	6	71
国公立医療機関	1	1	2
大学附属病院	2		2
公的・各種団体医療機関	12		12
医療法人	2		2
個人			
行政機関	4		4
助産所			
進学	4	1	5
その他			
合計	90	8	98

【日赤関係内訳】  
北海道内 北見赤十字病院十五名、釧路赤十字病院十七名、旭川赤十字病院二十一名、栗山赤十字病院二名、函館赤十字病院二名、置戸赤十字病院四名、清水赤十字病院一名、小清水赤十字病院三名  
北海道外 成田赤十字病院二名、名古屋第一赤十字病院一名、日本赤十字社和歌山医療センター三名  
【進学】  
日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科四名、日本赤十字社助産師学校一名

教職員人事

- 【退職】 平成二十五年三月三十一日付  
准教授 長谷部 佳子  
教授 シャロン ハシリ  
講師 市川 きみえ  
特任教授 谷井 泰子  
特任教授 岩田 銀子  
事務局長 上杉 治子  
事務局次長 高橋 貢
- 【採用】 平成二十五年四月一日付  
教授 中野 実代子  
講師 武澤 千尋  
事務局次長 安原 龍彦  
事務局次長 小林 彦  
平成二十五年五月一日付  
教授 山崎 弘資
- 【昇任】 平成二十五年四月一日付  
准教授 尾山 とし子  
准教授 山中 さつき

編集後記

学位授与式、入学式を中心にしてアメリカ研修、教職員紹介等の記事を掲載しました。次号は、学生の声を中心に記事を構成する予定です。ご期待下さい。



日本赤十字北海道看護大学学内誌

Viva Kango

第37号

発行日/2013年7月31日  
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1  
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125  
mail to : kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp  
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp